

がん教育推進自治体視察レポート

がん教育指導者研修会（佐賀県教育委員会）

＜研修の目的＞

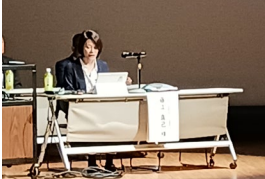
児童生徒のがんに関する正しい知識の普及と健康観の涵養のため、教職員や外部講師の資質向上を目的としたがんの教育研修会を開催し、学校におけるがん教育の推進を図る。

実施日	令和6年10月4日（金）	時 間	13：30～16：30
対 象	①佐賀県西部・北部地区の県立学校がん教育担当教員 ②佐賀県西部教育事務所、北部支所管内の市町立学校のがん教育担当教員 ③外部講師		
会 場	佐賀県唐津市：相知交流文化センター 文化ホール「サライ」		
参加者	約120名		

＜当日の流れ・内容＞

開会 13:30～	佐賀県教育委員会 保健体育課より開会の挨拶
--------------	-----------------------

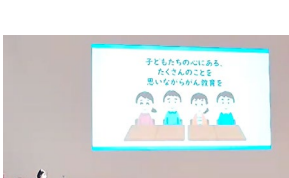
講演 13:35～	佐賀大学医学部付属病院 小児科 診療講師 西 真範 氏 子どもたちに伝えるべきこと ～小児がん専門医によるがん教育～ がん教育の目的 ●がん対策推進基本計画におけるがん教育及びがんに関する知識の普及啓発について ●がん対策基本法第23条について がん教育の在り方 ●「がん」を「身近な病気」として捉えてもらうことががん教育の重要なテーマ ●発達段階に応じた教育（授業）を行うことが重要 ●がんについて正しく知ってもらうことが重要 その他 ●外部講師が学校において児童生徒に指導する際の留意点について ●がんにならないための対策について ●がんの治療法について ●がんと遺伝について	 
--------------	--	--

令和5年度 がん教育推進校 実践発表 14:45～	佐賀県立三養基高等学校 養護教諭 藤江 真己 氏 ●テーマ がん教育について正しい理解と、がん患者に対する正しい認識をもち、健康と命の大切さについて主体的に考え行動しようとする生徒の育成を図る ＜テーマ設定理由＞ 高校段階で何を教え、何に取り組んでいくべきかを考えた際に、がんの知識や理解だけではなくがん患者への支援や配慮等、主体的に考え行動できる人になってほしいと考えたため ●目指す生徒の姿 ・がんに対する最新の情報と知識を持ち、がん患者に対して正しい理解ができるようになる ・がんの教育を通して、学んだことを実践できる態度をとられるようになる ・健康と命の大切さについて、主体的に考え、行動できるようになる ●実践内容 ・がん経験者による講演会 演題「白血病の経験から高校生に伝えたいこと」 突然の発病／告知された時の心境／白血病の治療／友人や家族の支え／がん患者やがん経験者への関わり方や配慮について／退院後の苦労と喜び／講師からのメッセージ ・がん教育プログラムを活用した事前学習の実施 事前・事後アンケートによる生徒の実態、変容の把握	 
------------------------------------	---	---

	みやき町立北茂安中学校 校長 古賀 健司 氏 ●テーマ がんに対する理解とがん患者に対する認識をもち、命の大切さについて考える態度を育む ＜テーマ設定理由＞ がんを正しく理解し、健康や命の大切さについて考え、適切な態度と行動をとることができる生徒の育成を目指すこととした ●目指す生徒の姿 ・がんについて正しい知識を身に付け、健康の保持増進に努める生徒 ・がん患者等に対し、互いに支え合う等、共感的な態度を示すことができる生徒 ・自他の健康と命の大切さを認識し、自らの生活習慣を改善していこうとする生徒 ●実践内容 ・専門機関等の講話や民間企業の人材活用によるがん教育 ・全生徒対象の医師によるがん教育講演会（がんという病気についての説明、がんにかかる要因、治療について） ・事前アンケートによる生徒の実態把握と事後アンケートによる変容の整理	 
--	---	---

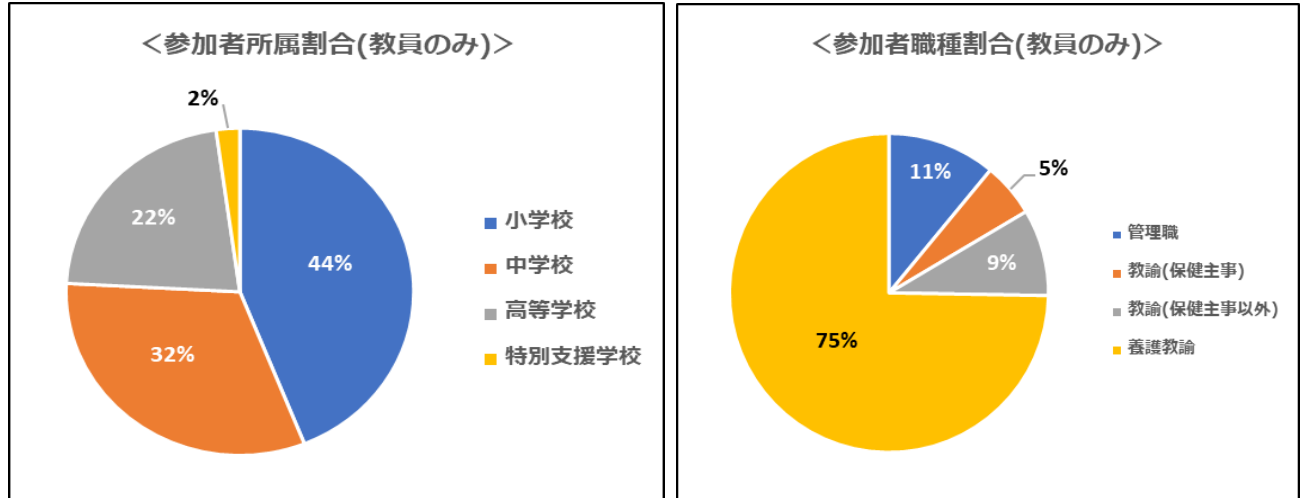
	みやき町立北茂安小学校 教諭 羽白 卓馬 氏 ●テーマ 健康について関心と理解をもち、よりよい生活習慣を身に付けようとする児童の育成 ＜テーマ設定理由＞ 各学年の発達段階において、「健康や命の大切さ」に重点を置いたがん教育を実施している。がん教育の視点で健康教育を見直し、家庭や地域との効果的な連携を図りながらより一層健康教育を充実させるために上記テーマを設定した ●目指す児童の姿 ・健康や命の大切さを理解し、より良い生活習慣を身に付けようとする児童 ・自分の命も他者の命も大切にし、思いやりの心で共に助け合おうとする児童 ●実践内容 ・小児科医による「がん教育講演会」 がんについて正しく知り、正しく予防すること／がんになることは決して特別なことではなく、健康でいられることがそれが特別であること／後悔しない人生にするために、今を一生懸命に過ごすことが大切であること ・6年生・保護者対象の公開授業 ・事前アンケートの結果を用いた授業計画及び教材作成	 
--	---	---

報告 15:45～	佐賀県健康福祉部 健康福祉政策課 がん撲滅特別対策室 ●佐賀県のがん対策 ・ステップ1：がんにならないようにする 生活習慣の見直し、原因となる細菌やウイルスの除去 ・ステップ2：がんを早く見つけて早く治療する がんの早期発見、がん医療の向上・連携 ・ステップ3：がんになっても安心して暮らせる社会づくり 相談体制の構築、がん患者等の就労支援、先端医療の促進
--------------	---

説明 16:05～	佐賀県教育委員会 保健体育課 健康教育担当 ●がん教育を行う理由 ・がんをテーマとして教育で扱うことは、生きている限り、誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか、「自分らしい生き方」「健康と命の大切さ」といった正解が一つではない問いを通して深く考えることにつながる ●がん教育の進め方 がん教育は保健体育、総合的な学習の時間、特別活動、道徳やその他関連する教科等、様々な教科や活動に関連させて指導をしていくことも必要である。また、発達段階に応じた指導をすることが重要である ●外部講師の活用 ・がん専門医、がん経験者等、それぞれの得意分野を活用し実施する ・外部講師を活用する場合は事前打合せを必ず実施する ・令和6年度は小・中・高・特別支援学校38校において、のべ24名の外部講師を派遣予定である ●がん教育を進める際の配慮について がんの既往歴等を含めすべてを把握することは難しいが、正しい配慮は人によって異なるため、外部講師は担任や保護者との連携も必要。また児童・生徒が、がん教育を受けて良かったと思うことが重要である	 
--------------	---	---

閉会 16:30	
-------------	--

がん教育指導者研修会参加者比率



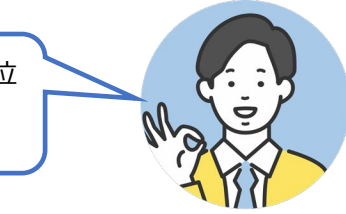
所属割合は小学校が44%と最も多い結果となった

職種の割合は養護教諭が75%と最も多い結果となった

参加者事後アンケートから抜粋



講師のお話は、がんについての基礎的な内容から、がん教育の問題点、在り方、歴史、治療等、様々な視点から分かりやすく講義していただき、今後の進め方の参考になった



発表された実践校の3校とも、学校の教育計画にきちんと位置付け、発達段階に応じたすばらしい取組をされていると思った



どのように指導を行って良いのか難しく感じていたので、取組を知ることができて良かった

視察担当が今回の研修内容について工夫されていると感じた点

講師による講演は、国の施策・方針、がんに対する意識の変化、世の中に溢れる情報の中から有益な情報を得るための留意点、外部講師を活用したがん教育の実施状況、外部講師を活用する意義、がん教育の内容・目標・授業実施時の留意点等、教員・外部講師にとって具体的且つすぐにも参考にできそうな、分かりやすいものだった。

昨年度のがん教育実践校（小学校、中学校、高等学校）による実践発表からは、テーマ・目指す児童・生徒の姿・実践の方向性等、しっかりと目標や計画を定め、取組を実施していたことが窺えた。指導者は、児童・生徒それぞれの発達段階で、がんを正しく理解させるとともに、今を大切に生きることの重要性も説く等、充実した授業や講演会等を行っていたことが分かる発表内容だった。